

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
427	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名（原題／訳）</b>	
Alcohol Consumption and Risk of Atrial Fibrillation A Meta-Analysis. アルコール消費と心房細動のリスクーメタ分析	
<b>執筆者</b>	
Kodama S, Saito K, Tanaka S, Horikawa C, Saito A, Heianza Y, Anasako Y, Nishigaki Y, Yachi Y, Iida KT, Ohashi Y, Yamada N, Sone H.	
<b>掲載誌（番号又は発行年月日）</b>	
J Am Coll Cardiol. 2011 Jan 25;57(4):427-36. Review.	
<b>キーワード</b>	
アルコール、心房細動、メタ解析	
<b>要 旨</b>	
<p><b>目的：</b> このメタ分析の目的はアルコール消費に関連した心房細動の推定リスクを検討することである。</p> <p><b>背景：</b> アルコール消費と心房細動との関連性を調査した観察研究の結果は、一時的な大量飲酒だけでなく習慣的な大量アルコール消費も心房細動のリスクと関連があるという仮説とは矛盾している。</p> <p><b>方法：</b> Medline（1966年1月から2009年12月）とEmbase（1974年1月から2009年12月）のデータベースの体系的調査が、アルコールと心房細動に関連するキーワードを使用して実施された。研究には、習慣的なアルコール摂取に関連した心房細動への効果判定のデータが報告あるいは算定できたかどうか含まれていた。最大対最小アルコール摂取量での心房細動への効果判定は、分散に基づく手法にて集められた。アルコール摂取と心房細動リスクの関係は、線形及びスプライン回帰分析で検討した。</p> <p><b>結果：</b> このメタ分析には、14の研究が含まれた。アルコール摂取量の最大群での心房細動の集約推定リスク（オッズ比/相対危険度）は最小群を基準とすると1.51(95%信頼区間：1.31～1.74)であった。線形回帰モデルでは、10g/日のアルコール摂取増加による推定リスクは1.08(95%信頼区間：1.05～1.10、R<sup>2</sup>=0.43、p値&lt;0.001)であった。またスプライン回帰モデルでは、心房細動のリスクはアルコール消費量の増加に伴って上昇するということが示された。</p> <p><b>結論：</b> このメタ分析の結果から、心房細動のリスク減少の意味ではアルコールを摂取しないことが最も好ましいということが示唆された。</p>	